



伊藤 洋平 議員



録画映像

文月・向野地区の
ワイン関連事業に関する件

問 ワイン事業に関連する市との取り組みの計画は

答 市長
ブドウの収穫体験やワイン用ブドウのオーナー制度を構築し、ふるさと納税の返礼品にするなどを検討してまいりたい

問 (1)文月・向野地区のワイン事業の進捗状況を伺います。
(2)ワイン事業による北斗市への様々な効果についてどのようにお考えかを伺います。
(3)市とワイン事業者との共同計画として次の点について、どのようにお考えかを伺います。
ア ふるさと納税での返礼品としての出品について検討されているのか。
イ 現在、大野農業高校で収穫されたブドウが、株式会社はこだてわいんで醸造されていますが、そのブドウを文月・向

野地区のワイン事業者に醸造してもらい、製品化させる等の計画はあるのか。
ウ ワインと食を併せたイベントや、道南圏でのワインツーリズム等、観光に絡む関連事業についての計画や展望について協議されているのか。
(4)その他、ワイン事業に関連する市との取り組みについて計画されていることがあるのか伺います。
答(市長) (1)4つの農業法人のうち9月に2事業者のワイナリーが完成し、この秋から初仕込みが行われる予定です。
また、他の2事業者のワイナリー及び農泊施設の建設については、今年度は造成工事を実施、令和6年度中に着工、完成する計画となっています。
(2)ワイン関連事業は単なる醸造用ブドウの栽培だけではなく、市内外の多様な方々との連携が図られ、観光振興をはじめ広く地域経済への波及効果が期待されています。
また、ブドウ栽培からワインの醸造、販売といった六次産業化の推進にも寄与するものであり、付加価値の高い事業展開が可能となるほか、地域の生産者や事業者によってワインに合う食材やお土産品など関係商品の開発なども期待される場所です。
(3)ア 北斗産ワインの生産本数が、現時点ではまだ少ないため、数量限定となり

ますが、返礼品として登録していただくよう取り組んでまいりたい。
イ 既に、市外のワイン生産事業者が大野農業高校で収穫されたブドウを原料としてワイン醸造を行っていますので、現時点では困難であるかと思いますが、大野農業高校のリンゴを原料としたシードルなどに興味を示している事業者もいますので、協議を進めてまいりたい。
ウ 本年6月にサッポロビールの「グラソポレール北斗シャルドネ初収穫2022」の発売を記念し、新函館北斗駅前会場にほつくるの会が主催の「道南ワインガーデン in 新函館北斗駅前」を初開催し、大変好評でした。
このイベントは、今後、北斗市だけではなく、道南圏のワインと食を併せたイベントとして、さらに発展していくことを期待しています。
また、ワインツーリズム等の観光関連事業に関しては、検討会議におけるビジョンに基づく施策の一つとして、体験型観光商品の開発や販売といった観光振興の取り組みを掲げており、生産事業者をはじめ、検討会議のメンバーや関係団体との協働関係を構築しながら、具体的な協議を進めてまいりたい。
(4)検討会議におけるビジョンに基づく施策の一つとして、ブドウの収穫体験や地元料理店での飲食提供、ワインの贈呈な

どのサービスが受けられるワイン用ブドウのオーナー制度を構築し、これをふるさと納税の返礼品とするといった取り組みを検討してまいりたい。
また、ブドウの収穫や農作業の手伝いなどを市職員がボランティアで行うといった取り組みも企画され、既に生産事業者と調整が行われているところであり、こうした取り組みをきっかけに、ワイン産地として、市民意識の醸成や支援体制の充実へと広がることに期待しているところです。
今後も、検討会議において、ワインを核とした地域活性化ビジョンの共有と推進に向けた協議を行い、生産事業者や関係団体と連携しながらビジョンの実現に向けて取り組んでまいりたい。



完成間近のワイナリー「DUE PUNTI (ドゥエ プンティ)」(北斗市文月)